○運動部活動顧問等研修会
スポーツ医・科学等の知見を含む科学的な指導方法等の講演会及び分科会を行うことにより、指導者が抱えている課題の解決を図るなど、指導者の指導力を向上させることで運動部活動の一層の充実を推進する。

期　日　平成 29 年２月１日（水）
会　場　北海道第２水産ビル
講　師
　全体会　佐々木　順一朗　氏
　　（仙台育英学園高等学校硬式野球部監督）
　分科会　寒川　美奈　氏（北海道大学院准教授）
　　佐藤　幹夫　氏（札幌山の手高校教諭）
　　蓑内　　豊　氏（北星学園大学教授）

１　課題及び取組のポイント
『課題』
　中・高等学校における運動部活動の指導については、体罰をはじめとする不適切な指導や、生徒の部活動指導に対するニーズの高度化に対応できる専門的な指導力をもつ教員の不足などの課題が見られることから、これまでも指導資料の作成や外部指導者の派遣、北海道高等学校体育連盟との連携による指導者講習会の開催などにより、各学校における運動部活動の指導の充実に努めてきた。
『取組のポイント』
　運動部活動指導において、スポーツ医・科学に基づいた先進的な指導により実績を上げている著名な指導者による全体講演と、運動部活動の指導経験年数に応じて３つのテーマの分科会を設定することにより、参加した運動部活動顧問及び外部指導者の指導力の向上を高める。

２　課題を解決するために取り組んだ内容
「運動部活動顧問等研修会」の実施
(1) 目　的：　スポーツ医・科学等の知見を含む科学的な指導方法の運動部活動への導入を促進するとともに、それぞれの指導者が抱えている課題の解決を図るなど、指導者の指導力を向上させることにより、運動部活動の一層の充実に資する。
(2) 参加者：運動部活動顧問教員及び外部指導者等　１８０名参加
(3) 内　容：
　ア　全体会（講演）
　　講師：佐々木　順一朗　氏
　　（仙台育英学園高等学校硬式野球部監督）
　　演題「生徒の主体性を育成する運動部活動について」

　　仙台育英学園高校野球部を夏の甲子園準優勝に導いた佐々木順一朗監督は、野球の技術的な指導はもとより、全部員への役割分担や野球ノートの活用、レクリエーション合宿の実施など、生徒一人一人の個性を重視し、生徒の自主性等を育む様々な指導の工夫により、100 人近い部員をまとめ、チームを強豪校へと導いた。その指導力、特に部活動のマネジメント力は全国の指導者から注目を浴びている。
　　・平成 13 年春の甲子園準優勝、平成 27 年夏の甲子園準優勝
　　・甲子園の通算成績 26 勝 17 敗

講演内容
・監督初期の頃は、ただ勝てばいいと思っていた。そのチームは最後にチームが分裂した。
・指導者は、変化を恐れない勇気と覚悟、そして、変化を阻む風習からの脱却が必要である。
・目指すのは「野球力ＵＰ」ではなく「人間力ＵＰ」である。「野球で勝つ」ではなく「将来良い親父になる」を一番の目標としている。
・生徒には「悩んだときは本を読め」と言っている。自分に合う本を見つけるのも勉強である。
・平日の練習は２時間半程度で、その練習時間で何ができるかを生徒たちに考えさせている。
・今の社会は、十人十色の時代ではなく、一人十色の時代である。今日の味方が明日の敵に急変することもある。こうだと決めつけることは危険である。
・日本の教育は、「それは無理だ」と子どもの夢を狭めている気がする。アメリカは、「挑戦するならしろ。でも自分で分かれ」というスタイルである。
・私には「本気になれば世界が変わる」と「運命は希望に生きる」という２つのモットーがある。何事にも本気でやってみる。そして、全てを受け入れて明日への希望を見いだすことである。
・生徒が自ら考えて行動するために、私は何をすべきかということを考えている。
・考えたことを言葉で伝えるためには、ボキャブラリーが必要である。そのため本を読むことを勧めている。

イ　課題別分科会

運動部活動の指導経験年数に応じて３つのテーマの分科会を設定し、講師による提言と、その提言に基づく協議を通してそれぞれの指導者の課題解決を図る。

①「運動生理学に基づく効率的なトレーニング」
（参加対象：指導経験年数５年以内の顧問）
講師：寒川　美奈　氏
（北海道大学院保健科学研究院　准教授）
内容：ベストパフォーマンスの発揮に必要な全ての要因を望ましい状態にもって行くこと「コンディショニング」が重要である。

②「部活動マネジメント」（参加対象：指導経験年数６～15 年程度の顧問）
講師：佐藤　幹夫　氏（札幌山の手高等学校ラグビーフットボール部監督）
内容：一人の指導者だけでは、できることに限界がある。そのため、目標を達成するために自分でできることは何か、できないことは何かを明確にし、他のコーチや学校、保護者、地域と連携して取り組むことが大切である。

③「メンタルトレーニング」（参加対象：指導経験年数 16 年以上の顧問）
講師：蓑内　　豊　氏（北星学園大学　教授）
内容：パフォーマンス向上の課題はチーム内にある。その解決方法をみんなで考え、コミュニケーションの促進を行うことがチームワーク及びパフォーマンスの向上につながる。

３　本調査研究から得られた成果

研修参加者のアンケートから、
・生徒の実態を踏まえた指導方法の改善充実の必要性
・指導者からの一方的な指導ではなく、生徒の主体的・対話的な指導の必要性
・科学的なトレーニングや指導方法の必要性
・部活動マネジメントの必要性
などについての理解が深まるなどの声が聞かれ、運動部活動指導者の指導力の向上につながった。

また、研修会における課題別分科会の講師による提言や協議を通して、部活動顧問が日頃から抱える課題の解決を図ることができた。

４　今後の課題

・スポーツ医・科学等の知見を含む科学的な指導方法の運動部活動への導入を一層推進する必要がある。
・運動部活動のマネジメント力、顧問の指導力向上を図る取組の継続的な実施の検討を図る必要がある。
・外部指導者の研修機会の充実を図る必要がある。